




# 「いりこだし」から考える、鉄の城下町・呉再生のヒント

2021.10.5

 0件のコメント



岡田 達也  
日経ビジネス記者



ギフト



印刷



クリップ



日本製鉄の呉地区の製鉄所では9月末に高炉が休止した

日本製鉄の瀬戸内製鉄所呉地区の高炉が9月末に休止した。2023年9月末までには呉地区全体が閉鎖となる。日鉄や協力会社で働く従業員が働く場を失い、地域経済へのダメージは計り知れない。シンボルの高炉の火が消えた鉄の企業城下町に再生への希望はあるのか。

## 日鉄従業員受け入れに意欲

広島県産の煮干しイワシを原料にした「いりこだし」を製造販売する調味料メーカー、味日本（広島市）。10月28日に開かれる日鉄関連の従業員向け合同企業面接会に参加する予定だ。「呉の製鉄所は創業から70年、地元を支えてきた。弊社も創業95年、地元が困っているのなら少しでも受け皿になって広島を盛り上げたい」。味日本の総務担当者は、呉の製鉄所がなくなること地元経済や雇用が落ち込まないか懸念する。



広島県産原料を使う「いりこだし」を製造販売する味日本。日鉄呉地区従業員の再就職先に手を挙げる。

終戦から6年後の1951年、戦艦大和を建造した日本海軍呉工廠（こうしょう）跡地に旧日亜製鋼が製鉄所を建設した。それ以降、鉄鋼を中核に重厚長大産業で栄えてきた呉は今、“城主撤退”という試練に直面している。

日鉄は9月末、製鉄所の中核設備である高炉への送風を止めた。62年の火入れから約60年、高炉は動きを止めた。日鉄は国内の鉄鋼需要縮小や中国の鉄鋼メーカーに対する競争力を高めるため粗鋼生産量を減らす決断をした。呉の高炉が再び稼働することはない。下工程の生産設備を含めて呉の製鉄所全体を23年9月末までに閉鎖する見通しである。